HARLEM SPIT'EM OUT! "it's absolutely raw"
- This paper gives y'all hip hop headz the real words from the real scene... -
12
Monthly News Paper
December, 2004
volume.63_issue.88

feature interview

DJ HAZIME

毎週土曜日のNO DOUBTでは圧倒的な存在感を示し、自身のアルバムリリースを控えているDJ HAZIME。ちょうど一年振りの登場！

■アルバムを作ろうと思ったきっかけは？

去年の暮れにプロデュースとかリミックスの仕事をやってみて「自分でもアルバムを出してみたいな」と本気で思ったのがきっかけで、年明け位からレーベルと話始めて「じゃあやろう」という事になりました。オレならこうするっていうのを形にしたかったのと、良いHIP HOPのアルバムを作りたかったっていう事が一番ですね。

■では、今回のアルバムは、DJ HAZIMEが良いなと思うHIP HOPが凝縮されていると。

まあそうですね。結局自分の好きな感じを出しているアルバムだから。「俺はこういうトラックが好きだ」とか、「こういうラッパー好きだな」っていう人に来てもらって歌ってもらったから、そういう感じは出ているとは思うけど。俺の事を知っている人が聴けば「DJっぽいね」って言うかも知れないけど、DJアルバムだからもっとフロアを意識して作りを派手にとか、そういうのを考えて作った訳じゃなく、ただ最初に言ったように、純粋に良いHIP HOPのアルバムを作りたかっただけなんだよね。音楽って聴く人によって変わってくると思うから、色んなイメージを持ってもらって良いと思う。

■制作を実際やってみていかがでしたか？

アルバム制作に関しては初めてだったけど、大変だったというよりは勉強した感じかな。例えば何かが原因で上手く行かなかった事を、後ろ向きになって投げちゃうのは凄い簡単だけど、次こうすればこうなるんじゃないかって考えた方が、ずっとポジティブでいられるじゃん。気は早いけど、「2枚目をやるならもっとこうやれば早いんだ」って今の時点で思っているし、自分の中での反省点で思いあたる所もあるから、制作過程において、スタジオ作業や曲作り以外の部分でも一つ一つ勉強になったとは思う。

■制作期間中のDJと制作のバランスは？

DJとの両立に関しては、今年から土曜日のレギュラーが毎週になって、アルバム制作時期と同じだったけど、スケジュール自体たいして変わらなかったかな。だから全く別の問題というか、制作がきついから土曜日に影響が出てるというよりは、制作とDJは別物なんだよね。「制作やりすぎたかな？」って思った事もあったけど、実際レコードも聴いていたし、そんなに両立が大変という感じはしなかった。むしろちょっと楽しいかも。制作って日程も決まっているし、お客さん相手じゃなくて日程相手だからさ。土曜のHARLEMに関しては締切がないからね。ある意味土曜日のHARLEMでON、OFFの切り替えが出来ているのかな。だって「アルバムどうしようかな」って考えるより、「今日何をかけようかな」っていう方がニヤニヤしながら考えているもん。

■リリース後に期待する事は？

お客さんが現場に足を運ぼうと思うきっかけになってくれれば良いよね。例えば、今高校3年生で「来春はHARLEMに来れます」という人が居るとして、でもHIP HOPって何だか全然分からないし、クラブでどうやって遊んで良いか分からないという人も結構いると思うんですよ。でも「あ、DJ HAZIMEのアルバム買ってみようかな」って、今回のこのアルバムを買って、「じゃあDJ HAZIMEを見に行ってみようかな」って、それがきっかけでクラブに来てもらって、「クラブって面白いんだな」って思ってくれれば良いと思う。誰かのアルバムを買って、ライブを見に行ってみようというのと同じ感覚で、クラブに来てもらいたいよね。あとはラジオでゲストで行ったりして、普段はMIXをしないでかけるような所であえてMIXをして、「DJがMIXをして曲をかけるとこうなっちゃいます」っていうのを電波に乗っけて出してみて、「面白いねDJ」って思ってもらえれば良いかな。

あとは、現状にちょっと不満があるというか、色んな媒体で「現場がどうだ」「現場系」とかよく書いてあるけど、それを書いている人達の中で、実際現場に遊びに来たり、本当の意味での現場を見ている人がどの位いるのかなって思う。誰かのリリースパーティーやツアーがあると取材するでしょ？ でもツアーの一カ所より、俺らはそれに匹敵、むしろそれ以上の集客を毎週入れているのに、そっちは無視で「現場系」なんて言って欲しくない。アルバムを出せばインタビューで話す機会もあるから、それを言いたかったというのはあるよね。でも、もうちょっと現場に目を向けて欲しいっていう訳じゃなくて、無視出来ない状況にしたかった、DJの現場をね。

■アルバムの人選の基準は？

基準は特には無いんだけど、一緒に曲を作ってみたかったっていう人と、オレがやるならこの人は絶対やってもらわないとっていう人がメインかな。例えば、NITRO MICROPHONE UNDERGROUND全員の曲は、1枚目のアルバムぐらいみんなでやってもらいたいなって思って。CHANNEL 5はキャリアの初期を共にした仲間で切っても切れない人達なので、アルバムをやるなら絶対やりたいと思っていて、一番最初に曲が出来たのもCHANNEL 5でしたね。MURO君は最初にテーマが『月曜から日曜までの1週間』っていうのがあって、それが出来るのはMURO君しか居ないなと。木曜に洋服を作ってとか、土曜日はHARLEMのNO DOUBTでDJとか。HARLEMのレギュラーDJでラップをやってるのってMURO君しか居ないから絶対やって欲しいって思っていて、実はPUSHIMは最初入る予定じゃなかったんだけど、オケが出来てテーマが決まったら、「これは絶対PUSHIMだな」って。本当はHIP HOP全開のアルバムを作りたかったから、REGGAEとかR&Bのシンガーを入れる予定はなかったんだけど、やっぱりPUSHIMは別で。参加してもらえて良かったです。あと餓鬼レンジャーは一緒にスタジオに居る事すら初めての人達だけど、餓鬼レンジャーの曲とか凄い好きだったから、やってみたいと思ってたし、LUNCH TIME SPEAXもそうだね。他の参加アーティストも含め、彼らと曲を作ってみたい、やって楽しそうな人というのが基準かな。良いリリックを乗っけてくれそうな人っていうのも絶対だし。

■今回の作品はDJ HAZIEが自信を持って世に送り出す作品となりましたか？

自信がないと作品なんか出せないでしょ(笑)。DJも出来ないし。別にクラシックを作ろうとか、誰のアルバムより良いアルバムとか、そういうのでも無いんですよね。自分が格好良いと思ったオケに、自分が格好良いと思っているラッパーの人に歌を乗っけてもらって、格好良い曲が作れれば良いかなっていうのが一番かな。変な話、音楽誌で評価が低かったとしても別に良いかなって。

■今年はアルバムも出て、今までとはまた違った年になったと思いますが、振り返ってみてどんな一年でしたか？

年明けすぐに念願のNO DOUBTレギュラー(毎週の)DJになって、凄く気合いが入りましたよね。今でもその気合いとか責任感は変わってないけど。

今まで一週空いていたのが、毎週になって、「良し、今日はこれをかけよう、あれをかけよう」というのが、もっとアイディアを出さないとマズいなって思って。実際それをかけるかけないは別にしても、レコードの棚を見る回数が増えました。「これどうかな？ 良いかな？」ってニヤニヤしながらレコードを選んだり。

ただ、丁度アルバム制作期間にも差し掛かってきて、制作もほぼ丸々一年やっていたから、ONとOFFがぐちゃぐちゃになる位で、お陰でサッカーも見れなかったし、ヨーロッパも行けなかったし、良い具合に音楽どっぷりの、そんな一年でした。

■やっぱりDJ HAZIMEにとってサッカーは大事ですか(笑)？

サッカーが無いと生きていけない(笑)。DJをやれているのもサッカーがあるから。サッカーを観ないと本当の意味でON、OFFがつけられないんですよ。日曜日は完全にサッカーだけを観て何もしない。そうする事によって「よし、明日から月曜日だ、頑張ろう」って生きていく活力となる訳ですよ。さらに水曜日にチャンピオンズリーグがあったりすると、そこでもまた一回リセットされるから、サッカーの試合が多ければ多い程、毎日の生活がリフレッシュ出来るんですよね。来年はワールドカップアジア最終予選もありますし、今年は殆ど観れなかったので、5月にはちょっと羽を伸ばして、ヨーロッパにチャンピオンズリーグの準決勝あたりを観に行き、アジアのアウェイの試合も観に行ったり、もうちょっと来年はサッカー漬けでも良いですかね？ サッカーを観に行くという口実じゃないと、休みが取れないので、サッカーを観に行けば休みが取れると。

あ、もちろんNO DOUBTは休みません！

■今の状況を客観的にみて思う事はありますか？

クラブに関しては、5年位前までだったらHIP HOPのクラブはB-BOYやB-GIRLしか来ないとかいう感じだったけど、最近は格好も含め色んな人が居るし、幅が広がって、幅広い層のお客さんが増えたのは良い事だと思う。

それと、今までインディーズや自主制作でやっていたような人達も、色んなアーティストがメジャーレーベルからHIP HOPの作品をリリース出来るようになったのは良い事で、アーティスト側もそれをビジネスとして考え出して、実際それが数字にもなって、成り立ってきていると思う。それは凄い良い事なんだけど、音楽業界に関しては、RIP SLYMEやKICK THE CAN CREWが売れたことで、メジャーのレコード会社の人達が、彼らのフォロアーを作ろうとする事ばかりに頭がいっていて、それが結局HIP HOPをダメにしていると思う。HIP HOPを全部同じにしても仕方ないじゃん。

■来年の目標は？

来年はもうちょっと多方面から、色んな角度からHIP HOPを紹介したいね。現場の人がやる現場じゃない場所というか、具体的にはラジオだったり、MTVやSPACE SHOWERとかにDJとして出る機会もあるしさ、リリースパーティーがあって、ライブを見に来たお客さんに、クラブでDJをやっているオレを聴いてもらったり、もちろん普段のHARLEMもそうだし。

■理想のパーティー像は？

DJとフロアの一体感がDJ側にもお客さん側にもお互いに感じられるパーティーが一番！ さらにお客さんの数が多ければ多いほど、そう思う数が多くなって、みんなが「何か今日は面白い！」って思えば最高ですよね。色で言うならオレンジ色の空気を作りたいなと。青じゃなくて、オレンジです。その空気は絶対オレンジ色なんです(笑)。

■毎週やっている中で、今年特に印象に残った日はありますか？

日にちまで正確には覚えてないけど、9月頃だったかな？ その日は最初から本当に良い空気でさ、MISSIEの時間から最後まで良い空気だったの。特に何があったという日でもなかったんだけど。一体感があったんですよ、その日は。フロアとDJの距離が凄い近くて、ブースを見ている人も多くなくて、何かをバンってかけた時も瞬間的に盛り上がるのではなくて、そのまま良い空気をキープしてる感じで。一番良いなと思ったのはお客さんの表情なんですよ。みんなライブっぽくブースを向いてワーっと盛り上がるのではなくて、みんながみんな良い表情だった。それはブースから見えるからさ、今日は良いな、良い空気だなって。フロアに沢山人が居ても、人が動いてないと意味がなくて、ただフロアに棒立ちでしている人が居たら、DJはその立っている人を動かさないといけない訳だから。その日は棒立ちしている人が居なくて、全然違ったんだよね。良い時の空気っていうのは、ブースを見て騒ぐのではなくて、お客さんの表情が全然違うという。DJはそこまで見て曲をセレクトしてかけているから、それがはまった時が一番楽しいですよね。

■クラブの楽しみ方は？

クラブ全体を良い雰囲気にして、幅広い年齢層の人にも楽しんでもらいたいので、タチの悪いナンパは止めた方が良いよね。ナンパをするならスマートにやらないと、ただ女の子の気分を悪くするだけで、全然格好いい事ではないと思う。あとフロアでタバコの火をつけたままグルグル回ったりとか、トイレの前で意味もなくたむろしたりとか。やっぱりマナーは守らないと。

それと、NO DOUBTに限らず、HARLEMでレギュラーDJをやっている人達って、責任感も凄いあるし、自覚もしていると思うから、色んな曲を色んな形で紹介しようと思ってやっているんですよね。それを素直に受け止めて欲しいと思う。DJは色々考えて、その時の空気を読んでかけているし、自分がかけたいからかけているのではなくて、自分がベストだと思ってかけているから、それをあんまり構えずに聴いて欲しいんですよね。HIP HOPの新譜が聴きたい、50CENTが聴きたいとかじゃなくて。純粋にDJがセレクトする物に対して柔軟に居て欲しいかな。ブースの前で腕組みをして曲を研究するとかじゃなくて、そうやって純粋に聴いてくれれば、ホントにクラブが楽しめる筈。酒も進むし、良い感じで家に帰れるんじゃないでしょうか。

■最後に一言。

12月22日に1stフルアルバムが出ます。そのアルバムのリリースパーティーを1月8日(土)にHARLEMでやります。参加メンツはアルバムに参加している人達が何人か来て僕のリリースを祝ってくれます。きっと楽しい1日になると思うので、コタツから抜け出して来て下さい。その前に元旦もNO DOUBTなので、遊びに来て下さい。おせち料理と日本酒とおしるこを作って待っています(笑)。

1st Album
DJ HAZIME
"AIN'T NO STOPPIN' THE DJ"

'04.12.22 Instores
¥3,059 (Tax incl.) CTCR-14390~1
cutting edge